第３回 西宮市緑の基本計画改定検討会　議事録（発言要旨）

■日　　時：平成 31 年 1 月 29 日(火) 10:00～11:30
■場　　所：西宮市役所 本庁舎 6 階 681 会議室
■出席委員：平田座長、梶木副座長、栗本委員、粟野委員、長岡委員
■事 務 局：土木局長　他 13 名
■議　　事：(1) アンケート調査結果について
(2) 第２回 改定検討会におけるご意見について
(3) 計画(素案)について

■決定事項：

≪本会議での主な決定事項≫

- アンケートについて、回収率が高く、貴重な 30 代の意見も収集できた。こうした市民からのご意見を取り入れた形で計画を検討する。
- アンケートについて、北部･南部、新住民･旧住民のセグメントごとでの分析等を行う。
- アンケートの分析手法に関する切り口については、何かあれば、別途ご意見いただく。
- 今後は、地域に密着した公園ごとでのアンケートの実施も検討する。
- 基本理念の「文教住宅都市」について、みんなで作っていくというニュアンスを含む分かりやすい表現とする。
- 施策やリノベーションといった難しい用語は分かりやすい表現に改める。また、用語の漢字表記･平仮名表記に関して、考え方を整理する。
- 今後の計画検討の進め方としては、A3 表の枠組みをベースとして詳細を検討する。

■議 事 録：(「⇒」は意見･質問に対する回答又は関連する意見等を示す。)

（１）アンケート調査結果について

① アンケート結果に関する評価･感想等について

- 活動の度合いによる意識の違いに関する分析について、活動しているからこそ、緑に対する感じ方が異なっているのでは」という仮説に基づいて分析をお願いした。ただし、活動されている人の絶対数が少なく、分析が難しかったと想定され、活動個数で分けるといろいろな要素が入ってしまうことが懸念される。具体的には、活動を活発に行われている方の主観的な意見というよりは、こうした方々が西宮市全体をどう見ているか、ということを把握されたかったが、分析に耐える数が取れなかったと思われる。【委員】
- 活動を推進する側としては、p. 13 の体験活動へのニーズが高いということを踏まえて、こうしたところから入り口を作っていくことができると感じられた。また、p. 14 の「その他やってみたい活動への主な回答」について、数は少ないが、市民の主体的な関りへの意向が垣間見られた。これをうまく引き出すことのできる施策が求められると考えられる。【委員】
- 公園の利用率について、全世代を通じて高齢者よりも 30 歳代が最も多かったのが印象的であった。子育て世代の利用が多いと考えられるが、30 歳代は、あまりアンケートに答えてもらえず、データとして出てこないことが多いが、公園の潜在的な利用層として浮き彫りになったと思われる。【委員】
- 回収率が高かったのは大変評価できる。関心の高さと督促状が功を奏していると思われる。

【委員】

・ 緑の量について、北部地域の満足度が高いことは予想できたが、公園を利用する目的として「花や新緑･紅葉を楽しむため」と回答された方が多かったのはうれしく思うと同時に、公園に関わる者として責任を感じた。【委員】

② 集計･分析に関する確認･修正等について

・ p. 3 のグラフについて、全体と地域別の集計値の出し方に問題がありそうである。【委員】
⇒ 集計方法について、再度確認する。【事務局】

・ p. 13 の分析の手法として、北部･南部の新住民･旧住民といったように分けると活動への意識も違いがあるかもしれない。【委員】

・ p. 16 の「3 個以上」の「緑化･緑地保全活動への意識が高い」という表現には違和感があり、修正が必要と考えられる。【委員】

・ p. 16 の活動の度合いについて、０個、１個、２個…ごとに、回答者属性（年齢帯、居住地域等）に違いが見られないか。【委員】
⇒ 詳細を分析の上、次回ご報告する。【事務局】
⇒ アンケートの分析方法に関しては、何かあれば、別途ご意見いただければと思う。【事務局】

③ その他の意見等について

・ 市内では地域差もあることから公園のリニューアルなどに際したワークショップ等を実施される前に、公園ごとにアンケートをして、みんなで考えるという工程を経たら、より公園に関心が向くと思われる。【委員】
⇒ 花と緑のまちづくりリーダーや住民参加による公園清掃活動等のネットワークもあるため、こうした既存のネットワークも活用しながら、計画の進捗管理を行う上での市民意識を把握していきたい。また、今回のアンケート調査は今後とも継続していきたいと考えている。【事務局】

・ 子供向けアンケート調査は現在、調整中の状況である。【事務局】

（２）第２回 改定検討会におけるご意見について

・ （意見としては、（３）と統合。）

（３）計画(素案)について

① 西宮の都市としての位置付けについて

・ 西宮市の都市としての位置付けはベッドタウンでよいのか。【委員】
⇒ ベッドタウンというと昼間人口と夜間人口の差が非常にあり、夜、寝に帰る場所というイメージがあるが、そういうものを目指してはいない。あくまで、生活基盤は西宮市内にあって、子育てや老後の生活空間を維持しているというイメージで考えている。【事務局】
⇒ 子育てする間はよいとして、その後はほかのまちに行ってもよい、という考えでは問題がある。子育てで来てもらって、その後も住み続けてもらえるまちでないといけない。市全体でニュータウン化することは望ましくなく、これまでの歴史や文化をもっと押し出して記載することが望まれる。公園だけではなく、まち全体で子供が遊べるような優

しいまちづくりを推進する子育て支援の充実が望まれる。【委員】

⇒ 子育て支援については集中的に記載しているつもりであるが、本市では５次総でも記載しているように、「将来も西宮に住みたい」と感じてもらえるようなまちづくりを目指している。昨今、コンパクトシティーという流れもあるが、西宮市内で都市の集約化を目指しているものでもない。そのため、現状の歴史･文化を維持しつつ、住み続けて快適なまちをつくっていきたい。その中で、これまでの緑の基本計画は、どちらかというと公園整備計画のようなイメージがあったかと思うが、今後は、緑がどういう役割を果たしていくのかといったように、公園整備だけではないということを今回の改定で表現していきたい。実際そうした取組もどんどんしている。そこをうまく表現していきたい。【事務局】

⇒ 市長の発言のされ方も最近変わってきていて、「住みたいまち」だけではなく、「住みたいまち、住み続けたいまち」と両方を言うようにしており、市の方針として、住んで、定住していただくことを目指している。アンケートで興味深いのは、「新しい公園や緑地を増やす」ことよりも、「山･川･海の貴重な自然環境を守る」という回答が突出して多かったことが挙げられる。これは本市の特徴でもあると考えられ、財政的に新しい緑を創出することが難しい状況の中で、今ある緑を守るということも大きな目標としてよいのではないかと思う。【事務局】

② 「文教住宅都市」について

・「文教住宅都市」という名称について、自分の中でイメージが固まっていない。個人的には甲東園から関学にかけての界隈といった印象を受けているが、皆さんはどのようなイメージをお持ちなのか。【委員】

⇒ 「文教住宅都市」を宣言した経緯としては、臨海部で石油コンビナートの埋め立て計画が起こった時に、工場誘致派と環境保護派に市を二分する論争を経て、大学が集積しているという土地柄も鑑みて、市のまちづくりの方針として「文教住宅都市」を宣言したもの。新たな住民に対して西宮の歴史や文化についての丁寧な説明が必要であるため、巻末等に分かりやすい説明が必要と考えている。行政用語など、ほかにも分かりづらい表現があれば適宜ご指摘いただきたい。【事務局】

⇒「文教地区」は都市計画法上の特別用途地区の一つで、本市での発端は上ヶ原地区であり、ご指摘の箇所はそのシンボル的な場所でもある。なお、臨海部には武庫川女子大学があり、市内には多数の学校が立地していることから、市全体として「文教住宅都市」を宣言したものである。【事務局】

⇒ 現状の素案は文字ばかりであるため、イメージしづらいかと思われる。今後は、図表、写真等を用いてイメージしやすい計画書を作っていきたい。【事務局】

・「文教住宅都市」という文言を見れば、大学キャンパスがあるまちを想像してしまうが、行政側の意図としては、身近な自然と触れ合えるとか、そうした環境に近い住宅地が整っているとか、そういう幅広い都市全体のイメージとして用いたいという意図があると思う。p. 20の「文教住宅都市」という文言は、誰もが知っているという前提のもとに話を進めており、なじみのない新住民には理解しにくいかと思われる。ただ、リード文を見ると、文教住宅都市の実現に向けて、緑を整備していくということになっているので、緑をもってみんなが考える文教住宅都市を実現するための計画であることのイメージが湧くような基本理念を考えると良いと思われる。その中で、文教住宅都市の説明があってもよいかと思われる。市と

して目指している文教住宅都市は、大学との連携、産業との連携、暮らし続けるといった、自立した都市を目指すことと思われ、文教住宅都市を目指す中で、緑を守り育てることで実現するというイメージの基本理念の設定を行うとよいと考えられる。【委員】

⇒ ５次総に出てくる「文教住宅都市」は分かりにくかったとしても意味はあるが、その部門別計画としての緑の基本計画に出てくる「文教住宅都市」という文言がなじむのかどうかは事務局で再検討したい。個人的には別の表現としたい。【事務局】

⇒ 「みどりかがやく文教住宅都市・西宮」という表現は不動産のキャッチフレーズのようだ。文教住宅都市を入れるのであれば、市民参画や生涯学習の視点を意識して、緑と関わる文教住宅都市とか、緑から学ぶ文教住宅都市とかいった表現がよいのではないか。【委員】

⇒ 事務局でも再考するが、何か良いキャッチフレーズがあれば、別途お教えいただきたい。【事務局】

⇒ メインテーマとサブテーマを逆にしてもよいのではないか。みんなで作っていく、というイメージがあればよい。【委員】

⇒ そうすると、ほかの自治体よりも一歩進んだ感じになると思われる。【委員】

⇒ 「文教住宅都市」は、堅いイメージがあるため、もっと受け入れられやすい柔らかい表現ができると良い。生涯学習など、多様な年代を受け入れられるような考え方が必要と思われる。【委員】

③ 構成･文言の修正等について

・ 大前提として、「緑」は漢字を用いるのか。【委員】

⇒ 「みどり」もそうであるが、「まちづくり」や「まちなか」など、平仮名表記とすると柔らかい印象となる。ただし、全てを平仮名表記とすると文章として読みにくくなることもあるため、内容によって使い分けるのがよいのか、どちらか一方に統一するのがよいのか、最終の詰めの段階で提示していきたい。計画タイトルとしても「緑の基本計画」と前面に出しているが、これをサブタイトルとして、基本理念の言葉を持ってくるといったことも考えられる。法的な位置付けは「緑の基本計画」であるが、公表するのは柔らかい表現としたもの、といったように２段使いもできると思う。難しい言葉の取扱いや平仮名表記、強調表現等のデザイン的なところに関しては、全体像を示す段階で提示したいと考えている。【事務局】

⇒ どちらかに統一するわけではないと思うが、使い分けは必要で、どういうときに漢字を使い、どういうときに平仮名を使うということを明らかにする必要がある。【委員】

⇒ 「緑」は漢字にすると色が前面に出てハード的なイメージとなるが、平仮名にするとそれを取り巻く活動や営みなどのソフトも含まれるようなイメージとなる。【委員】

・ 施策体系の「緑が取りなす“人とのつながり”」について、「取りなす」という表現は取り繕うような感じで違和感がある。「織りなす」ではどうか。【委員】

⇒ ここでは、緑が人と人をつなぐ、人と緑をつなぐという意味合いで用いたもの。表現については再考する。【事務局】

・ 「健全な暮らし」という表現は違和感を覚える。何をもって「健全」というのか。【委員】

・ 「リノベーション」という表現は補足説明が必要ではないか。また、今回の計画はハードよりの施策が多い印象を受ける。特に、「地域のきずなを強めるまちづくり」では、住まう場所を知るとか、愛着を持つということに貢献する人づくり等のソフトが必要と思われる。また、

施策体系に「緑化」とあるが、その具体像がイメージしづらい。あと、「緑が育む“健全な暮らし”」に挙がっている項目に関して、本当にこれだけなのか。「緑が育む」ということからすると限定的過ぎないか。新たな公園づくりに際した寺社林や農地の活用といったことについても触れられたい。【委員】

⇒ 表にするとバラバラで、目指すところも違うイメージを持たれるかもしれない。また、行政用語等の言葉はかみ砕いて分かりやすい表現を心掛ける。全てつながっているということが分かるように、また、素案の修正は何回も繰り返す中で、表現方法や言葉の使い方、並べ方も見えてくると考えている。【事務局】

⇒ 「緑化」は公共施設の整備とは異なる民有地の緑地整備等を示すものと思われる。また、山･川･海の保全については、「Ⅰ(1)自然環境の保全」で対応していると思われるが、山の保全はどこで対応しているのか。【委員】

⇒ 山の保全については、「Ⅰ(1)①生物多様性に配慮した里山保全」で対応する。西宮市では緑の基本計画のほかに生物多様性地域戦略を策定しており、その中で西宮独自の環境である山･川･海･まちの環境を市民参画によって保全することを謳っている。緑の基本計画では、生物多様性の視点を持って、山の保全を図ることを考えている。【事務局】

⇒ 指摘にあった、社寺林の保全は「Ⅰ(1)③まちの緑の保全」に掛かっており、また、まちでの学習といった内容は「Ⅲ(1)①環境学習･自然体験の充実」や、行政側からは「Ⅲ(1)③緑の情報発信」に掛かってくると思われる。現段階では、項目までの整理ということであるが、今後は、項目の用語の設定も工夫して、項目を見れば全体像が分かるような表現にしてもらいたい。【委員】

・ マトリックスを作成されて分かりやすくはなったが、p.18 の「3-2.緑に係るまちづくりの課題」と p.20 の「4-2.課題に対する目標(目指す姿)」について、同じ項目で記載されており、これらも対応関係が見えるようにした方がより分かりやすいと思われる。【委員】

⇒ p.18 の「≪主な内容≫」と p.20 の「≪主な取組≫」の違いが分かりづらく、繰り返しのような印象を受ける。【委員】

⇒ 前計画でも、５次総でもそうであったが、課題整理に際して、現状の取組にも言及してしまい、先走った書き振りとなってしまったことがあった。そのため、明確に流れが分かるような表現に整理していく。【事務局】

・ マトリックスの構成としては問題ない。今後、各欄の詳細を検討していく。また、素案の構成としてもおおむね了承が得られたと思われるが、「文教住宅都市」等の用語の工夫や 3-2～4-2 にかけての構成等についてはもう少し検討が必要。【委員】

④ その他のご意見等について

・ 学校の転出入が激しい地域にあって、西宮市での定住を考えておられる方が多数いらっしゃる。こうした転勤族に人気があるのは、都市的な生活ができる上に、近くに自然を感じられるところであることが人気の理由と考えられる。住んでみたら意外と落ち着いていたり、子供も都市で暮らしていた時よりも穏やかになったりと、ここで子供を成長させたいというニーズもあると考えられる。こうした状況の中、川遊びは象徴的な自然体験であると考えられるが、自治会レベルでは川遊びを禁止しているところもあり、残念に思う。【委員】

⇒ 山･川･海の自然環境とその使い方の中で、子育てに係るソフトとマッチングできれば良いと思う。【事務局】

（４）その他（今後の予定等について）

・ 第４回検討会の日程調整については、現段階で確定できないため、別途個別に調整させていただく。【事務局】

・ 資料の事前送付はなるべく早めに行うこと。【委員】

以上